

## 最近の症状

2023.9.4

6月下旬だった。左足の親指が痛み出した。思い当たることがない。きつと寝ている間に何かしたのだろうと結論づけた。様子を見ることにした。だんだんと痛みがひどくなっていった。おかしい。あるとき、家人に話した。すると、「痛風じゃないの」いとも簡単に答えが返ってきた。そうだった。自分は痛風だった。忘れていた。

確か1回目の単身赴任のときだった。健康診断で尿酸値が跳ね上がった。よっぽど食生活が変わったらしい。このままでは、痛風に向かうだけである。だが、症状は出なかった。単身赴任が終わり、自宅に戻っての生活が始まると、尿酸値は下がった。

2度目の単身赴任となった。尿酸値には気をつけていた。しかし、また値が上昇した。このときも、症状は出なかった。自宅での生活が始まると、今度も値は下がるのかと思ったら、そうでもなかった。自宅でも、単身赴任のような食生活を送っているのか。そう考えると、思い当たる節があった。

数年前のある日、左足の人差し指が痛み出した。何かしたのか。いつの間にか、ぶつけたか。最初は、そんなことを考えていた。日に日に痛みが増していった。尋常ではない痛さとなった。革靴を履くと最悪である。通常の状態では歩けなくなった。いよいよもって、お医者さんに行くしかないとなった。

もしかしたら、折れているのかもしれない。ちょうど、近所に内科と整形外科があった。初めて、お医者さんのはしごをした。このときも、家人に痛風のことを言われていた。だが、自分では認めたくはなかった。とはいえ、痛みには勝てずに、まずは内科に行った。血液検査をした。診断はよくわからない。続いて、整形外科に行った。レントゲンの結果は、骨折はしていないということだった。痛風の疑いが強まった。

1週間後、とりあえず、内科で診てもらい、血液検査の結果を聞いた。尿酸値はさほど高くはなかった。たぶん痛風だろうということで、すぐ隣の薬局で痛み止めや尿酸値を下げる薬をいただいた。幸いにも、薬が効いたのか、しばらくして痛みは治まっていった。

あれから、3年である。すっかり痛風のことを忘れていた。前回の健康診断でも、尿酸値は高めではあったが、要精検ではなかった。油断していた。3年前と同じ内科に行った。診断はよくわからず、また血液検査となった。1週間後に行くと、値は高めではあったが、さほどではなかった。だが、痛みはひどかった。痛み止めと値を下げる薬をいただき、痛みは治まった。

どうやら、痛風が持病らしい。昔、同僚の若い先生が痛風になったとき、「いったい、何を食べているんだ」とバカにしてかまっていたことがあった。よもや、自分になろうとは、夢にも思わなかった。実は、痛風になりそうな食べ物を私は食べないのである。だから、納得がいかない。

また、いつ再発するかわからない。前回は人差し指で、今回は親指だった。足の親指が痛風の典型的な症状だそうだ。ぴったり当てはまる。まいった。きつと、痛風の症状は、「あなた、もう少し健康のことを考えなさい。今のままの食生活ではだめですよ」と、言っているのである。そう考えると、ありがたい症状に思えてくる。